



九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」No.211

2013(平成25)年 3月20日(水)発行

＜失われた一日＞■2011年3月11日(金)14時46分 東日本大震災発生 15時35分頃、南相馬市海岸に津波到達。原発事故発生の11日から12日までの最初の日を政府と東電が空費し、初動対策でくじったことが、その後の深刻化を招く。これが「失われた一日」(吉岡 齊 九州大学教授・副学長)といわれている。

憲法講演会、脱原発集会より 九条の会に若い人がいなくても心配ありません！

■■憲法改訂や原発再稼働の動きの中で、各地で開催されている講演会・集会の断片ですが報告です■■



○「憲法」とは、国や政府(権力)を縛るものであり、国民を守るためのものです。国会議員や公務員は「憲法第99条」で憲法を守る義務があり、憲法は勝手に変えられないのが近代憲法の常識です。また、改憲勢力と原発推進勢力は根っ子が全く同じです。改憲勢力と、われわれとのせめぎ合いはこれからです。日本の行く末、我々子孫の運命は、我々の運動とその成果如何にかかっています！

(2月14日、東京・豊島区民センター・「豊島九条の会」主催：福島県九条の会会長吉原泰助先生講演会)

○「九条の会」運動では3つ教訓が生まれた。①良心的な保守の人々とも共同した運動になり、加茂市の小池市政はよい例で「日本一福祉の豊かな町」となっている。②地域に根付いた運動として、地域のいろいろな課題に取り組んでいる。③新しい社会層、脱原発、TPPで農協、医師会なども巻き込んだ「九条の会」に若い人がいない」と嘆きますが、全く心配はありません。戦争を知らないのですから当然です。若い人たちは生まれた時から9条があり、平和は空気になっています。でも、原発の放射能汚染問題のように本当に困ったときは立ち上がります。(2月16日、神奈川県川崎市・「たかつ九条の会」主催：渡辺治さん講演会)



○今回の原発事故による被曝者は、原子力の巨大な国際的機関、たとえばICRP(国際放射線防護委員会・原発推進派)を相手にするようなものなので、大変厳しい状況です。福島医大の山下俊一教授などはピエロみたいなものです。そういう国際組織では、「福島は終わった」「日本政府の対応は良かった。とてもしょうずに隠した」「大衆をよくだました」と評価されています。小児甲状腺ガンとともに「白血病」にも注意し、半年に一度は血液検査をしてヘモクロビンの減少16か14に減るなどわずかな減少も見逃さないことです。子どもの首のしこりは水腫で心配ないと思います。

(3月3日、東京・国分寺エル・「子どもの本・九条の会」主催：小児科医山田真さん講演会にて)



○もう1台の原子炉も再稼働させない。そのために働く。(大江健三郎)

○この会場には日の丸の旗を持つ方もおり、幅広く「原発はいらない」という支持が広がっていて、大変嬉しく思います。……(澤地久枝)

○去年東京では蚊がいなくなり不気味です。今私は地震のたびに4号機が大丈夫かと大変恐怖に思っています。それにどうして警察は危険人物の私を逮捕しないのか。いつでも逮捕してくれ!(広瀬 隆)

(3月9日、東京・明治公園「つながろうフクシマ! さようなら原発大集合」にて)

▲福島県の学校教育の壊滅的な状況、避難しながら学習している生徒たちのこと、教員の切迫した勤務の様子を壇上から訴える浪江町の中学校教員柴口正武先生。1万5千人の参加者は静かに聞き入っていました。

○2012年5月5日の子どもの日に、日本のすべての原発が停止しました。でも問題は何も起きなかった。「原発が止まると、電気が足りない」「このままでは日本経済はたいへんなことになる」というキャンペーンはそうではなかった。お金の弊害を是正することが、私たち信用金庫の役目です。そんな根底的な問題意識から、原発問題を考え直し、原発のない安心できる社会をつくるため、今後も取り組んでいきます。



(城南信用金庫理事長吉原毅さん・3月10日川崎市中平公園「原発ゼロへのカウントダウンinかわさき」にて)

《会員の皆様からのお便り》

■東京都北区に避難していますが、妻と二人共、元気にしています。昨年11月北区9条の会主催で「原発再稼働反対・音楽と公演のタベ」があり参加してきました。その中で、いわき出身の講師神田香織さんの「はだしのゲン」の語りを聞きました。すごい迫力でしたし、感激しました。3月10日には「さよなら原発 in 飛鳥山」に行きます。原町は汚染物置場も決まらず除染も進まず、まだ帰れそうもないのかなと思います。（原町区高橋晃一さん、避難先の東京にて）

★

★

■3月1日、東京の大森で開催の「第4回福島ふるさと交流会」（主催：福島県被災者同行会・公益財団法人さわやか福祉財団）に参加しました。南相馬市の職員から復興の進捗状況のお話があり、困難な様子がよく分かりました。

ところが「放射能・放射線」について放射線技術士からのお話は、「100ミリベクレルでも心配はない、安全です」「福島医大の先生方、山下俊一先生をはじめとして信頼できますね」などと、放射線の安全をしきりに強調。小児甲状腺ガン3名が見つかり、県民に不安が広がっている今、断言できないはずなのに「安全」と公言する軽率さや、福島県民の親の不安や切迫した状況が分かっていないことに怒りが込み上げてきました。この交流会には、実態や真相を知りたいため遠くから参加した方が多いのです。避難者の交流激励会が「放射能過小評価」のために開催されているのかと疑ってしまいました。（小高区青田利幸さん、避難先の埼玉県にて）

★

★

■私が今一番知りたいことは、①事故原発の本当の状況。②私は農民だが、今後この土地で農業も漁業も再開できるのか。③今後の大地震の予想を地震学者に教えていただきたい。④除染は本当に有効か。みんな南相馬市で安心して住めるようになるのか。⑤放射線量の高い福島や郡山市は、今からでも子どもたちや妊婦を避難させなくていいのか、などです。専門家の方々や政治家の皆様から、しっかり教えていただきたいものです。（原町区・50代・男性）



市民らを前に古里への思いを語る今井選手、右隣は豊田社長

今井正人選手南相馬市を激励 豊田章男トヨタ社長と原町で集会

南相馬市小高区生まれ、原町高校卒、順天堂大学時代の大学箱根駅伝で「初代山の神」、現在トヨタ自動車九州の陸上選手今井正人さんは、2月25日、原町区の南相馬ジャスモールでトヨタ自動車豊田章男社長と対談する集会で、大震災と原発事故からの復興を願い、南相馬市民を激励しました。

NPO法人はらまちクラブ（江本節子理事長）の主催で約400人が参加。豊田社長は就任直後の「品質問題を克服したこと」を、今井選手は前日の24日東京マラソンで11位（国内3位）で自己ベストタイムを出しましたが、「大きく飛躍したいが、一歩一歩進むしかないこともある。皆さんが何かを感じてくれるような走りをこれからも目指したい」と誓いました。

また、原町区出身の芸能人松鶴家千とせ、相馬市出身で巨人軍の鈴木尚広選手、横浜DeNA中畑清監督、郡山市の俳優西田敏行、福島市出身で大相撲前頭十五枚目の双大竜らも復興の福島県民を励ましてくれます。元気を出しましょう。

（▲写真は、2月26日『福島民報』より）

《事務局より》

◆原発事故から2年なのに、3月18日フクイチ（福島第一原発）で停電、冷却できないとか。国防軍や改憲どころではない。首都圏・南海トラフ巨大地震・富士山…の不安も高まっているのに。

◆3月20日、イラク戦争開戦から10年。誰も責任をとらない不可思議さ。原発事故も全く同じです。

◆5月3日憲法記念日に、全国紙に発表する「改憲反対の市民意見広告」を今年も「はらまち九条の会」として掲載します。本当に大変な時を迎えています。

《「はらまち九条の会」事務局連絡先》

○会長：平田慶肇 TEL0244-24-1211 ○石田賢二 TEL0244-22-4037 ○早坂吉彦 TEL0244-22-0326
○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL0244-22-7511・FAX26-0892
○事務局長：山崎健一 TEL090-7527-5453（避難先：〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延4-26-43-505 Eメール：yamazakiken1@gmail.com） ○HP担当：大浦祥見 TEL0244-24-0704 ○番場恵子

神奈川県川崎市医療生活協同組合様から 101,291円のカンパをいただきました

◆事務局長の山崎は避難先の川崎市などで、依頼により「震災や南相馬市の状況」を話しています。1月26日は川崎市労働会館で川崎医療生協の組合員約250名にお話しました。直後に主催者が本会を激励するためカンパを募ったところ、約10万円が集まり、後日手渡されました。心より感謝申し上げ、有意義につかせていただきます。